

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の策定について

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」を策定しました。

1 概要

広島県教育委員会では、令和6年3月に、令和6年度以降の県立高等学校の在り方を示す「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」（以下「基本計画」という。）を策定したところです。

この度、基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」の実現に向け、「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」（以下「実施計画」という。）を策定しました。

2 実施計画について

別紙のとおり

3 参考（広島県教育委員会ホームページ）

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」（令和8年5月15日）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/jissikeikaku.html>

「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」（令和6年3月11日）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/dainikikeikaku.html>

今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画

令和8年5月15日

広島県教育委員会

目 次

1	計画の趣旨等	
(1)	計画の趣旨	1
(2)	計画の位置付け	1
(3)	計画期間	1
2	基本的な考え方	
(1)	社会状況の大きな変化と高等学校教育改革の必要性	2
(2)	県立高等学校を取り巻く現状	3
(3)	県立高等学校が果たすべき役割	4
(4)	再編整備の方向性	5
(5)	統合校の特色化・魅力化	5
(6)	学科改編等による特色化・魅力化	6
3	実施内容	8
	参考資料	34

1 計画の趣旨等

(1) 計画の趣旨

広島県教育委員会では、本県全体の教育水準の維持・向上を図り、一人一人が生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人づくりを実現するため、令和6年度以降の県立高等学校の在り方を示す新たな基本計画である「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」（以下「基本計画」という。）を、令和6年3月に策定したところです。

今後、県内の児童生徒数が減少する中においても、基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」を実現するため、「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」（以下「本計画」という。）を策定しました。

基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」

－ 生徒の学び －

未来に夢や希望を持ちながら学び、生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を身に付けています。

－ 県立高等学校教育における人材育成 －

誰一人取り残さず、全ての生徒の可能性を引き出す教育活動の充実が図られるとともに、十分な教育効果をあげられる教育環境が整備されており、様々な分野で地域や広島、日本の成長・発展を担うことのできる人材や、世界を舞台に活躍できる人材など、多様な人材を育成しています。

(2) 計画の位置付け

本計画は、国において令和8年2月13日に策定された「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた「N-E. X. T（ネクスト）ハイスクール構想～」（以下「グランドデザイン」という。）を踏まえ、基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」を実現するため、県教育委員会として推進していく具体的な内容を示すものとして策定するものです。

(3) 計画期間

本計画の計画期間は、令和8年度から令和15年度までの8年間とします。

なお、本計画の推進に当たっては、グランドデザインを踏まえ、令和22年（2040年）を見据えて改革を進めることとし、社会の変化や国における教育改革の動向など、高等学校教育を取り巻く状況などの変化等に応じて、本計画の進捗状況等を検証し、必要に応じて見直しを行います。

2 基本的な考え方

(1) 社会状況の大きな変化と高等学校教育改革の必要性

令和 22 年（2040 年）には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化し、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや、理系人材不足が生じる可能性が指摘されています。

そうした中で、生徒一人一人が多様な個性や能力を生かして、「自ら問いを立てる力」や「他者と共に価値を創り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、

＜視点 1＞ 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、A I に代替されない能力や個性の伸長

＜視点 2＞ 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

＜視点 3＞ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保の 3 つの視点から、更なる高等学校教育改革を進めることが求められています。

＜視点 1＞ 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、A I に代替されない能力や個性の伸長

令和 22 年（2040 年）の社会を見据え、我が国の成長に欠かせないイノベーションを創出するために、生徒の「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばし、多様な経験を積めるようにすることで、生徒一人一人の可能性を広げ能力を伸ばし、ウェルビーイングの向上を図るとともに、自立した主権者としての主体性や社会の一員としての市民性を育み、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが重要です。

また、全国に先駆けて「主体的な学び」を促す教育活動を実践してきた本県においても、A I に代替されない力として、例えば、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力や他者と協働する力などの基盤的な力を着実に育成するとともに、生徒が学ぶことの意義を実感しながら探究的・実践的な学びを進めることが必要不可欠です。

＜視点 2＞ 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

労働人口減少、A I・D X の進展等による産業構造転換に対応するためには、新たな価値創造や、A I・D X 等を駆使した生産性向上を実現する産業イノベーション人材の育成が急務となっています。

このため、高等教育機関や産業界等との連携・協働によって、いわゆる理系人材や、各地域において不足が見込まれる、地域社会・経済を支える、デジタル技術等を活用するエッセンシャルワーカーの他、本県の農林水産業やものづくり産業、県土や県民の暮らしと安全を支える職業など、社会や産業界のニーズに応じた人材等を育成する観点から、県立高等学校における特色化・魅力化及びその実現に向けた教育環境の整備を図っていく必要があります。

＜視点3＞ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

高等学校においては、多様で質の高い学びを保障し、誰一人取り残さず、全ての生徒の可能性を最大限引き出すことにより、様々な場で生徒の夢を実現することができるよう、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、本県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化を進めることが必要です。

また、これから高校生となる義務教育段階の子供たちの中にも、不登校児童生徒、特別な教育的支援を必要とする児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒が増加している現状や、通信制課程に在籍する生徒数も近年増加している状況を踏まえ、本県の県立高等学校のいずれの課程にあっても、柔軟で質の高い学びの選択肢を確保していくことが重要となっています。

また、少子高齢化や人口減少といった課題に直面している本県が、社会全体で課題を解決する構造へと変化を遂げ、持続的に発展する社会を実現するために、専門高校の機能強化・高度化、普通科改革^{※1}を通じた特色化・魅力化、地理的アクセス・多様な学びの確保を通じた高等学校教育の転換により、高等学校が生涯にわたって活躍できる人材を育成し、地域社会においてイノベーションを起こす力を底上げする起点としての役割を果たすことも求められています。

(2) 県立高等学校を取り巻く現状

① 少子化の進展に伴う、生徒数の減少

中学校3年生在籍者数は、昭和63年度の第2次ベビーブームのピーク(48,780人)から減少し続け、令和5年度にはピーク時の約半数(25,234人)となっています。今後も減少は続き、本計画の最終年度の令和15年度には、ピーク時の約4割(21,077人)となる見込みです。

また、令和6年の本県における出生数は、15,765人であり、さらなる減少が見込まれています。

② 教職員定数の減少に伴い、学校再編が不可避

高等学校の生徒数が減少すると、教職員定数も減少します。教職員が少なくなると、例えば、多様な科目の設置が難しくなるなど、生徒に必要な教育環境を維持することが困難になります。

そのため、本県の教育環境を維持していくためには、急激な生徒減少期を迎える前の余力があるうちに、これからの社会に求められる高等学校の在り方を見据え、学校統合などの再編整備をしていくことが避けられない状況です。

③ 高校無償化の影響

いわゆる高校無償化^{※2}の影響などにより、私立高等学校の多くが所在する都市部を中心として、私学志向が高まっている状況があります。

※1 「普通科改革」とは、「普通教育を主とする学科」の弾力化のこと。設置者の判断により、普通教育を主とする学科として「普通科」以外の新学科が設置可能となった。

※2 高校無償化とは、令和8年度から、国公私立の高校や高等専門学校、専修学校（高等課程）などに通う学生を対象に、授業料を支援する「高等学校等就学支援金制度」の拡充（収入要件の撤廃）により、全ての家庭で高校の授業料が実質無償化されること。

④ 国における高等学校教育改革

令和 22 年（2040 年）には、エッセンシャルワーカーやいわゆる理系人材が不足することなどが懸念される中において、国においては、高校無償化による影響が生じる公立高等学校等への支援の拡充を図るため、グランドデザインを策定し、「A I に代替されない能力や個性の伸長」「社会・経済の発展を支える人材育成」「多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保」に向け、都道府県の取組に対し、財政的支援を講じることとされています。

(3) 県立高等学校が果たすべき役割

県立高等学校には、今後の少子化の進展に伴い、生徒が減少する中においても、高等学校教育の普及及び機会均等の確保の観点から、県内各地域にバランスよく配置するなど、全県的な視野に立って教育を提供することが求められています。

また、県立高等学校は、私立、市立及び国立高等学校と協力しあいながら役割分担を図り、本県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められています。

さらに、社会の変化により、A I 等のデジタル技術を活用して、ものづくり等の地域産業の持続的な成長を牽引する専門人材（産業イノベーション人材やエッセンシャルワーカー等）や、地域に愛着をもって人の暮らしと安全を支え地域の持続的な発展を支える人材の育成など、県立高等学校に求められるニーズも多様化していることから、少子化が進展する中においても多様な体験・学びができるよう学校の特色化・魅力化を図り、様々なニーズに応えられる教育環境を整備することが必要です。

(4) 再編整備の方向性

① 都市部（中山間地域以外の地域）

少子化が進展する中であっても、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができる環境を整えるため、令和15年度時点で基本とする学級数^{※3}を下回ることが見込まれる学校について、近隣校との統合など、統廃合を進めます。

なお、統廃合の検討対象とした学校のうち、令和7年度時点で入学定員が基本とする学級数を満たしている学校については、その学校が所在する市町が生徒数の確保に向けた取組（中学校における進路指導の充実、地域や地元企業等と連携した教育活動の充実等）を実施する場合は、その成果を検証した上で改めて検討します。

また、統合の実施に当たっては、地域のニーズや生徒・保護者の希望等に応えることができるよう学科を再編するなど、学校の特色化・魅力化を図り、新たな教育活動を実現するために施設の改修・改築を優先的に実施します。

② 中山間地域

中山間地域^{※4}の学校については、高等学校教育の機会均等の確保の観点から、本計画における統廃合の対象とはしません^{※5}。

(5) 統合校の特色化・魅力化

統合校においては、高校教育改革に係る国の財源も活用しながら、教育資源の集中により、次の①～③をはじめとした機能強化を図ります。

① 学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設置

地域産業界や高等教育機関等と連携しながら専門性の高い学びを行うとともに、学科横断的な学びにより、多様な他者と協働して、実社会の課題を解決する力を総合的に身に付ける総合型高等学校を設置します。

② 大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置

いわゆる普通科改革の枠組みの中で、文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題の解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラムを展開し、生徒の興味・関心に応じた質の高い探究的な学びを実現するために、県内の大学等との連携を強化した「新しい普通科（仮称）」を設置します。

③ 生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動を実施する学校の整備

様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒など、多様な生徒のニーズに応えるために、生徒が学ぶ方法、時間、場所などを柔軟に調整できるフレキシブルな学びを提供する学校を設置します。

※3 中山間地域以外の地域（都市部）は、1学年4～8学級の範囲内を基本とする。

※4 「中山間地域」とは、県の中山間地域振興条例（平成25年広島県条例第44号）第2条第1項に規定された地域のこと。

※5 1学年1学級規模校（都市部に立地するものを含む）については、基本計画に示す再編整備の検討基準に従う。

(6) 学科改編等による特色化・魅力化

統合校以外の学校においても、高校教育改革に係る国の財源も活用しながら、次の①～③をはじめとした特色化・魅力化を図ります。

① 技術革新など新しいニーズに対応する専門学科の整備

A I等の新技術への対応力など、これからの時代に必要な力を育成する新たな学科を設置します。

大学科	小学科	教育内容
農業	先端生産創造科（仮称）	高等教育機関や産業界と連携して、I C T、A I等の先端技術により、次世代の農業の形を実現するスマート農業など、実践的な知識・技術を身に付けていく専門的な学び
工業	ロボット工学科（仮称）	ロボットやモビリティに関わる基礎技術とA I等に関わる先端技術など、自動化機器の制御に関わる知識・技術を身に付けていく専門的な学び
	デザイン工学科（仮称）	建築・インテリア等の設計に関わる伝統技術と3 Dデジタルデザイン等の先端技術を融合させて、新たな価値を創出していくための知識・技術を身に付けていく専門的な学び
家庭	生活共創科（仮称）	変化し続けるライフスタイルに着目し、衣・食・住・保育・福祉・消費生活・環境の領域を横断して、生活の質の向上に寄与する力を身に付けていく専門的な学び
情報	情報科学科（仮称）	企業や高等教育機関等と協働して、A I等のデジタルの成長分野で求められる情報技術を活用する力を身に付けていく専門的な学び
理数	サイエンス科（仮称）	大学・産業界等と連携した共同研究を通して、最先端科学技術を用いた観察・実験や文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、幅広い教養と科学的思考力を身に付けていく専門的な学び
体育	スポーツ科学科（仮称）	競技力を向上するとともに、専門競技の選手育成を支える専門家や指導者に求められるデータを科学的に分析し、パフォーマンス向上に活用する力を身に付けていく専門的な学び

② 地域産業界と連携した総合学科の設置

多様なキャリア志向の生徒が、地域産業界と連携して、最先端の技術に触れながら探究する実践的・体験的な学びを通して、多様な価値観に触れながら自身のキャリアについて考え、幅広い進路選択ができる総合学科を設置します。

③ 入学者選抜の工夫

学校の活力維持が特に求められる学校（専門教育を主とする学科、中高一貫教育校等）については、それぞれの特色に応じた入学者選抜を実施します。

また、学校の活性化を図るために、全国からの生徒募集が可能な学校の拡大を検討します。

〔専門教育を主とする学科等〕

対象学科	内容	実施年度
農業科 工業科 商業科 家庭科 看護科 福祉科 体育科 国際科 普通科（理数コース） 普通科（国際教養コース） 普通科（医療・教職コース）	選抜日程の前倒し（定員の一部分のみ） 一次選抜より早い日程で、特色枠による選抜の一部として、学校独自検査等による選抜を実施	R 9

※新設する情報科、理数科については、募集年度より実施

〔併設型中学校・高等学校〕

対象校	内容	実施年度
広島中・高 三次中・高	高等学校の選抜日程の前倒し 一次選抜より早い日程で、学力検査等による選抜を実施	R 8

※広島叡智学園中・高は高校段階においては、外国人生徒等のみ選抜を行うため対象外

なお、本計画で再編整備の対象としない学校においても、学校の特色化・魅力化に向け、教育環境や教育内容（産業教育や理数系教育等）の充実を図っていきます。

とりわけ、中山間地域の学校においては、生徒が減少する中であっても、活力ある教育活動が維持できるよう、学校の特色づくり等による活性化を図ります。

3 実施内容

【学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設定】

呉工業高等学校、呉商業高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

呉工業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る3学級となっている。 ○ 令和15年度の入学人数は40人（1学級）程度となる見込み。 ○ 定時制の令和7年度の入学人数は14名。 ○ 施設について、200㎡以上の建物13棟中、11棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
呉商業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は6学級であったのに対し、令和7年度は4学級となっている。 ○ 令和15年度の入学人数は91人（2.3学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物12棟中、10棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。

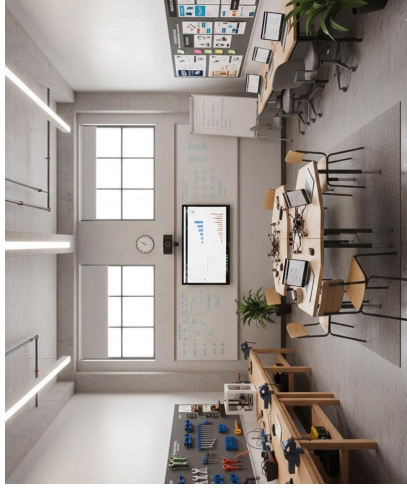
校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）		
					生徒数（人）	学級数（学級）	生徒数（人）	学級数（学級）	生徒数（人）	学級数（学級）	
呉工業	呉市阿賀北二丁目10-1	昭和14年 （1936年） 昭和25年 （1950年）	全 定	機械科・材料工学科（80人） 電気科・電子機械科（40人） 機械科・電気科（1学級） キャリアデザイン科（1学級）	953 (H1)	24 (H元)	8 (H2)	179	7	40	1.0
呉商業	呉市広古新開四丁目1-1	昭和32年 （1957年）	全	情報ビジネス科 （160人）	811 (S61)	18 (S61)	6 (H2)	402	12	91	2.3

(2) 再編

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 （学級）	入学定員 （人）
未定	呉商業高等学校 （呉市広古新開四丁目1-1）	全日制	機械科・材料工学科（40人） 電気科・電子機械科（40人） 情報ビジネス科（80人）	4	160
		定時制（夜）	機械科・電気科（1学級） キャリアデザイン科（1学級）	2	—

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 全日制、定時制のいずれの課程においても、地域産業と密接に関わっている工業科、商業科の専門的な学びの継続に加え、DX対応やAI活用など先端技術に対応し、学科の枠を越えて協働的に探究活動に取り組むことで、地域に貢献できるものづくりとビジネスのスペシャリストの育成を目指す
- 工業科と商業科を併置し、地域産業界と連携して、実社会の課題を解決する力を総合的に身に付けていく学び
- DX対応やAI活用など先端技術に対応し、商品のアイデア創出から試制作制作まで一体的に取り組めるスペース（ラボ）の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実
- 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設			校名	主な施設		
	建物名	延床面積	建築年度		建物名	延床面積	建築年度
呉工業	屋内運動場棟	2109㎡	S48	呉商業	管理・特別教室棟	1879㎡	S45
	新総合実習室棟	2082㎡	S59		特別教室棟	1458㎡	S47
	管理特別教室棟	1325㎡	S38		普通教室棟	1008㎡	S57
	普通教室棟	1322㎡	S35		屋内運動場棟	953㎡	S43
	管理特別教室棟	1044㎡	S43		情報処理科（校舎別館）	930㎡	S46
	総合実習室棟	825㎡	S44		普通教室棟	799㎡	S59
	普通特別教室棟	813㎡	S46	普通教室棟	704㎡	S58	
	総合実習室棟	779㎡	S39	特別教室棟	660㎡	S50	

【学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設置】

【大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置】

海田高等学校、安芸南高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

海田	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和59年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は7学級となっており、令和15年度は5.8学級程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物1棟中、7棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
安芸南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和63年度）は9学級であったのに対し、令和7年度は5学級となっており、令和15年度は3.9学級程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物5棟中、2棟が築40年を超過している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）			
					生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）
海田	安芸郡海田町つくも町1-60	昭和17年 （1942年）	全	普通科（200人） 家政科（80人）	1422 （S60）	31 （S60）	11 （S59）	828	22	7	234	5.8
安芸南	広島市安芸区矢野西二丁目15-1	昭和61年 （1986年）	全	普通科（200人）	1222 （H元）	26 （H元）	9 （S63）	583	15	5	155	3.9

(2) 再編

校名	校地	課程	再編後	
			1学年の 学級数 （学級）	入学定員 （人）
未定	海田高等学校 （安芸郡海田町つくも町1-60）	全日制	8	320
		新しい普通科（仮称） （240人） 生活共創科（仮称） （80人）		

新しい学校の特色・魅力（方向性）

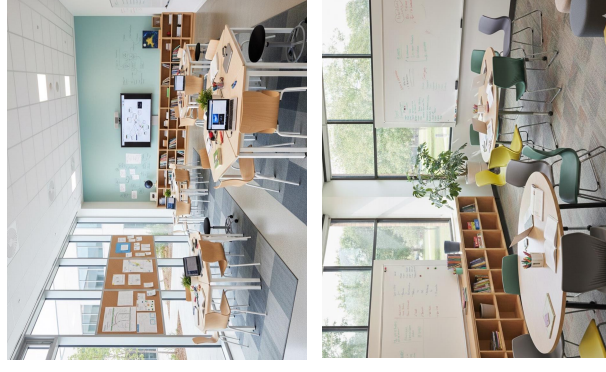
- 学科の枠を越えて協働的に探究活動に取り組むことを通して、多様な進路を実現することで、地域社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目指す
- 新しい普通科と生活共創科を併置し、地域産業界等と連携して、実社会の課題を解決する力を総合的に身に付けていく学び
- 県下最大級の学校規模のメモリットを最大限に活かした、活発な学校行事や部活動
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）と地域の多様な主体との積極的な交流のための地域交流スペースの整備
- 大学や地域産業界等との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実
- 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討

<新しい普通科>

- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理構造的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）

<多様な進路選択への対応>

- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
海田	管理教室棟	2275㎡	S41	H11	安芸南	管理教室棟	4280㎡	S60	
	特別教室棟	1592㎡	S43	H5		管理教室棟	1811㎡	S61	R6
	屋内運動場棟	1527㎡	S59			特別教室棟	1485㎡	S61	
	武道場	1218㎡	H27			屋内運動場棟	1224㎡	S60	
	普通教室棟	1213㎡	H23			武道場	572㎡	S62	
	特別教室棟	1152㎡	S51						
	セミナーハウス	1048㎡	H4						
特別教室棟	820㎡	S46	H5						

竹原高等学校、忠海高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

竹原	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 学級当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は34人（0.9学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物11棟中、10棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
忠海	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和51年度）は6学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は31人（0.8学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物9棟中、8棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）					
					生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）	生徒数（人）	学級数（学級）			
竹原	竹原市竹原町3444-1	明治39年 (1906年)	全	普通科（40人） 商業科（40人）	1074 (H2)	24 (H2)	8 (H2)	360 (H2)	47	6	2	入学定員	34	0.9
忠海	竹原市忠海床浦四丁目4-1	明治30年 (1897年)	全	普通科（80人）	815 (S53)	18 (S53)	6 (S51)	276 (S51)	61	6	2	入学定員	31	0.8

(2) 再編

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1 学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	竹原高等学校 (竹原市竹原町3444-1)	全日制	新しい普通科（仮称） (120人)	3	120

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 竹原地域の人材育成の拠点として、多様な進路を実現することで、地域の持続的な発展を支える人材の育成を目指す
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）やキャリア発達支援のためのSCRR※（サポート・コンサルテーション・ルーム）を整備
- ※ 日々の学校生活などの相談に対応する教員が、様々な専門スタッフと連携し、生徒のキャリア形成等を支援する場
- 大学との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実
- 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討



- <新しい普通科>
- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）

- <多様な進路選択への対応>
- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供

【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設			校名	主な施設			内外部改修年度
	建物名	延床面積	建築年度		建物名	延床面積	建築年度	
竹原	普通教室棟	1728㎡	S45	忠海	特別教室棟	1746㎡	S45	H17
	特別教室棟	1710㎡	S54		管理教室棟	1595㎡	S46	H23
	屋内運動場棟（第2）	1506㎡	H3		体育館兼講堂棟	963㎡	H9	
	特別教室棟	1366㎡	S42		管理棟	935㎡	S47	H23
	屋内運動場棟（第1）	860㎡	S36		特別教室棟	738㎡	S49	H17
	管理教室棟	816㎡	S43		理科教室棟	727㎡	S35	H6
	特別教室棟	738㎡	S51		理科教室棟	546㎡	S40	H6
	普通教室棟	648㎡	S46		武道場棟	450㎡	S44	

【大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置】

【生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動を実施する学校の整備】

三原高等学校、三原東高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

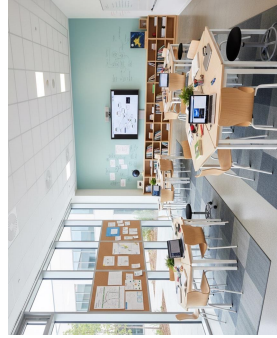
三原	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は4学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は99人（2.5学級）程度となる見込み。 ○ 定時制の令和7年度の入学者は44名。 ○ 施設について、200㎡以上の建物9棟中、8棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
三原東	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和61年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は36人（0.9学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物11棟中、8棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）			
					生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）
三原	大正9年 (1920年)	全	普通科（160人）	1128 (H2)	376 (H2)	24 (H2)	8 (H2)	464	12	4	99	2.5
	昭和24年 (1949年)	定	普通科・午前（1学級） 普通科・夜間（1学級）					157	4	1		
三原東	昭和32年 (1957年)	全	普通科（80人）	1077 (H2)	376 (S61)	23 (H2)	8 (S61)	137	6	2	36	0.9

(2) 再編

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	三原高等学校 (三原市宮沖四丁目11-1)	全日制	新しい普通科（仮称） (160人)	4	160
		フレックス制（昼）	普通科 (1学級)	1	—
		フレックス制（夜）	普通科 (1学級)	1	—

新しい学校の特色・魅力（方向性）



- 全日制課程と、昼夜間を通じて学びの時間を柔軟に調整できるフレックス制課程を併置し、様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒などが、個々のライフスタイルや目標に合わせて学び、ソーシャルスキル等を身に付けたりすることで、多様な進路を実現し、地域の持続的発展を支える人材育成を目指す学校
- 情報機器やタブレット学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）やキャリア発達支援のためのSCR（サポート・コンサルテーション・ルーム）を整備
- 大学との連携をコーディネートする教員や教育相談コーディネーター等、教職員配置の充実
- 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討



- <新しい普通科>
- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）
- <多様な進路選択への対応>
- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供

【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
三原	普通・特別教室棟	1793㎡	S49	H20	三原東	管理教室棟	1593㎡	S52	H29
	屋内運動場棟	1540㎡	S60			管理教室棟	1504㎡	S52	H29
	管理教室棟	1496㎡	S43	H22		第2屋内運動場棟	1236㎡	S61	
	特別教室棟	1456㎡	S46	H13		特別教室棟	965㎡	S56	
	普通教室棟	980㎡	S47	H20		管理教室棟	900㎡	S54	H29
	特別教室棟	965㎡	S45	H13		特別教室棟	777㎡	S58	
	特別教室棟	801㎡	S43	H13		特別教室棟	738㎡	S59	
武道場棟	690㎡	H27		セミナーハウス	661㎡	H4			

賀茂高等学校、河内高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

賀茂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は6学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は234人（5.8学級）程度となる見込み。 ○ 定時制の令和7年度の入学者は25名。 ○ 施設について、200㎡以上の建物16棟中、12棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
河内	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は49人（1.2学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物6棟中、6棟が築40年を超過するなど、全ての施設で老朽化が進行している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）				
					生徒数（人）	学級数（学級）	生徒数（人）	学級数（学級）	生徒数（人）	学級数（学級）			
賀茂	東広島市西条西本町16-22	明治39年 (1906年) 昭和43年 (1968年)	全 定	普通科（240人） 普通科（1学級）	1491 (H2)	33 (H2)	495 (H2)	11 (H2)	736	19	6	234	5.8
河内	東広島市河内町下河内10194-2	明治42年 (1909年)	全	普通科（80人）	921 (H元)	23 (H元)	332 (H元)	8 (H元)	162	6	2	49	1.2

(2) 再編

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	(本校) 賀茂高等学校 (東広島市西条西本町16-22)	全日制	新しい普通科（仮称） (240人)	6	240
		フレックス制（夜）	普通科 (1学級)	1	—
		フレックス制（昼）	普通科 (1学級)	1	—

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 地域共生社会の実現を目指す高校教育のシンボルとして、様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒などが、地域との関わりの中で、個々のライフスタイルや目標に合わせて学び、ソーシャルスキル等を身に付けたりすることで、多様な進路を実現し、地域の持続的発展を支える人材育成を目指す学校
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）やキャリア発達支援のためのSCR（サポート・コンサルテーション・ルーム）を整備
- 地域の状況に鑑み、多様な文化的背景をもつ生徒への支援の充実
- 大学との連携をコーディネートする教員や教育相談コーディネーター等、教職員配置の充実
- 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討

<新しい普通科>

- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）

<多様な進路選択への対応>

- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりとし身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供

<フレックス・キャンパス（仮称）>

- 河内地区に、自ら計画した時間割により、自由度の高い学びができるフレックス・キャンパスを設置
- 遠隔教育システムを活用した授業等、本校と一体となった教育活動の実施



校名	主な施設				校名	主な施設				
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度	
賀茂	屋内運動場棟（新体育館）	3072㎡	H14		河内	管理普通教室棟	3761㎡	S53		
	管理教室棟	2010㎡	S43	H11		屋内運動場棟	2046㎡	S53		
	屋内運動場棟（旧体育館）	1119㎡	S46			管理普通教室棟	1818㎡	S52		
	理科教室棟	936㎡	S56	H22		特別教室棟	968㎡	S54		
	管理教室棟	896㎡	S42	H11		特別教室棟	810㎡	S55		
	特別教室棟	880㎡	S48	R2		普通教室棟	540㎡	S57		
	普通教室棟	871㎡	S52	R2						
	特別教室棟	819㎡	S58							

【生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動を実施する学校の整備】

高陽高等学校、安西高等学校、高陽東高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

高陽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は6学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は170人（4.3学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物8棟中、7棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
安西	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は53人（1.3学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物9棟中、8棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
高陽東	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和62年度）は10学級であったのに対し、令和7年度は6学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は158人（3.9学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物13棟中、11棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）			
					生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）
高陽	広島市安佐北区真亀三丁目22-1	昭和52年 (1977年)	全	普通科（240人）	1539 (H2)	33 (H2)	11 (H元)	240	18	6	170	4.3
安西	広島市安佐南区高取南二丁目52-1	昭和54年 (1979年)	全	普通科（80人）	1541 (H元)	33 (H元)	11 (H元)	52	6	2	53	1.3
高陽東	広島市安佐北区落合南八丁目12-1	昭和58年 (1983年)	全	総合学科（240人）	1344 (H元)	30 (H元)	10 (S62)	240	18	6	158	3.9

(2) 再編

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	高陽高等学校 (広島市安佐北区真亀三丁目22-1)	全日制	総合学科 (280人)	7	280

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒など、多様な生徒がニーズに応じて、幅広い科目群（スポーツ、アート・デザイン、テクノロジー、DX、防災等）の中から科目が選択でき、希望する進路の実現が可能な総合学科
 - キャリア発達支援のためのSCR（サポート・コンサルテーション・ルーム）を整備
 - 教育相談コーディネーター等、教職員配置の充実
 - 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討
- <多様な進路選択への対応>
- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
高陽	普通教室棟	2400㎡	S52	H20	安西	特別教室棟	2943㎡	S53	
	特別教室棟・普通教室棟	1976㎡	S51	H19		管理教室棟	2426㎡	S54	
	屋内運動場棟	1673㎡	S53			講堂（体育館）	1524㎡	S55	
	特別教室棟	1420㎡	S52	H19		普通教室棟	1109㎡	S55	
	管理棟	1414㎡	S54			特別教室棟	944㎡	S54	
	武道場棟	1071㎡	S57			研修室（セミナーハウス）	662㎡	H5	
	教室棟	648㎡	S56			武道場棟	573㎡	S57	
	同窓会館	233㎡	H9			普通教室棟	460㎡	S56	
	屋内運動場棟	2795㎡	S57						
	普通教室棟	1492㎡	S57	R5					
高陽東	普通教室棟	1140㎡	S58	R5					
	特別教室棟	1115㎡	S57						
	特別教室棟	821㎡	S58						
	管理棟	785㎡	S57						
	実習室棟	675㎡	H7						
	特別教室棟	648㎡	S58						

松永高等学校、沼南高等学校、福山誠之館高等学校定時制、福山葦陽高等学校定時制、東高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

松永	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は4学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は115人（2.9学級）程度となる見込み。 ○ 定時制の令和7年度の入学者は5名。 ○ 施設について、200㎡以上の建物6棟中、5棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
沼南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和51年度）は6学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は29人（0.7学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物12棟中、11棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
福山誠之館 (定)	○ 令和7年度の入学者は8名。
福山葦陽 (定)	○ 令和7年度の入学者は21名。
東	○ 令和7年度の入学者は159名。

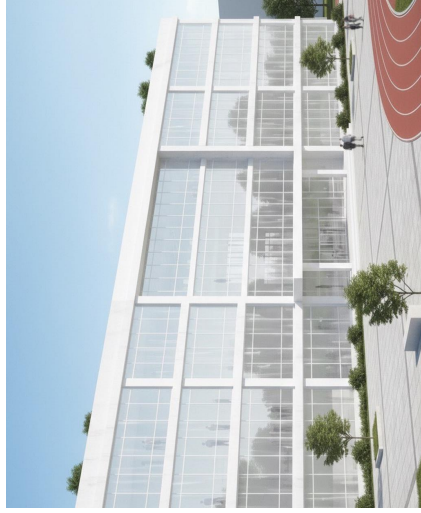
校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）		令和7年度		令和15年度（見込み）			
					生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）	入学定員	生徒数（人）	学級数（学級）
松永	福山市神村町10113	大正10年 (1921年) 昭和23年 (1948年)	全 定	総合学科（160人） 普通科（1学級）	1506 (S63)	32 (S63)	11 (H元)	302	10	4	115	2.9
沼南	福山市沼隈町下山南4	大正10年 (1921年)	全 定	家政科（40人） 園芸デザイン科（40人）	776 (S50)	18 (S50)	6 (S51)	87	6	2	29	0.7
福山誠之館	福山市木之庄町六丁目11-1	昭和23年 (1948年)	全 定	普通科（1学級）				25	3	1		
福山葦陽	福山市久松台三丁目1-1	昭和43年 (1968年)	全 定	普通科（1学級）				62	4	1		
東	福山市木之庄町六丁目11-2	平成3年 (1992年)	全 通	普通科（300人）				611			159	

(2) 再編

校名	校地	課程	学科 (入学定員)	再編後	
				1学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	松永高等学校 (福山市神村町10113)	フレキシブル 全日制	総合学科 (160人)	4	160
			総合学科 (80人)	2	80
			総合学科 (300人)	—	300

新しい学校の特色・魅力 (方向性)

- 松永高等学校、沼南高等学校、福山誠之館高等学校(定)、福山葦陽高等学校(定)、東高等学校の教育内容を引き継ぎ、全日制課程、定時制課程、通信制課程を併置し、連携することで、生徒がライフスタイルや興味・関心、進路希望に応じて、学ぶ方法、時間、場所など、自分に適した学びのスタイルを柔軟に調整できるフレキシブル課程
- 地元産業界と連携した農場での実習や地元企業での職場実習など、多様な教科・科目から生徒が主体的に選択できる実践的・体験的な学び
- 生徒の多様な学び方に柔軟に対応できる新校舎を建設
- キャリア発達支援のためのSCR (サポート・コンサルテーション・ルーム) を整備
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、教職員配置の充実
- 校名や施設・設備等については、地元自治体の意向を踏まえて検討



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
松永	特別教室棟	3793㎡	H11		東	管理教室棟	2418㎡	S63	
	普通・特別教室棟	3430㎡	S59			屋内運動場棟	1019㎡	H元	
	普通教室棟	2518㎡	S60			宿泊棟	385㎡	S63	
	屋内運動場棟	1529㎡	S54						
	特別教室棟	1312㎡	S46	H16					
	管理教室棟	1048㎡	S60						
沼南	普通教室棟	1512㎡	S45	H16					
	普通教室棟	1180㎡	S43						
	屋内運動場棟	1096㎡	S46						
	管理教室棟	1006㎡	S56						
	実習室棟	936㎡	S51						
	管理教室棟	884㎡	S52						
	管理教室棟	846㎡	S55						
	普通教室棟	655㎡	S39	H14					

【技術革新など新しいニーズに対応する専門学科の整備】

先端生産創造科（仮称）への学科改編

（１）対象校

庄原実業高等学校

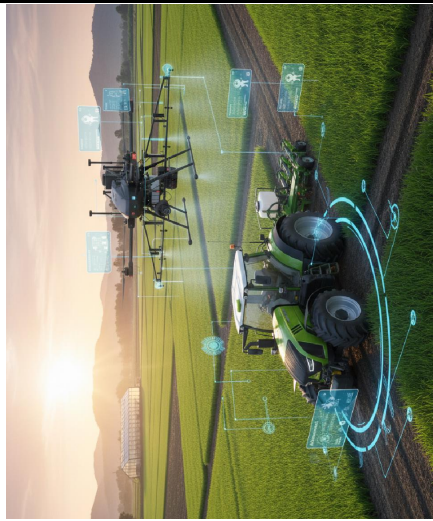
全：生物生産学科①/
環境工学科①/
食品工学科①/
生活科学科①

全：先端生産創造科（仮称）①/
環境工学科①/
食品工学科①/
生活科学科①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

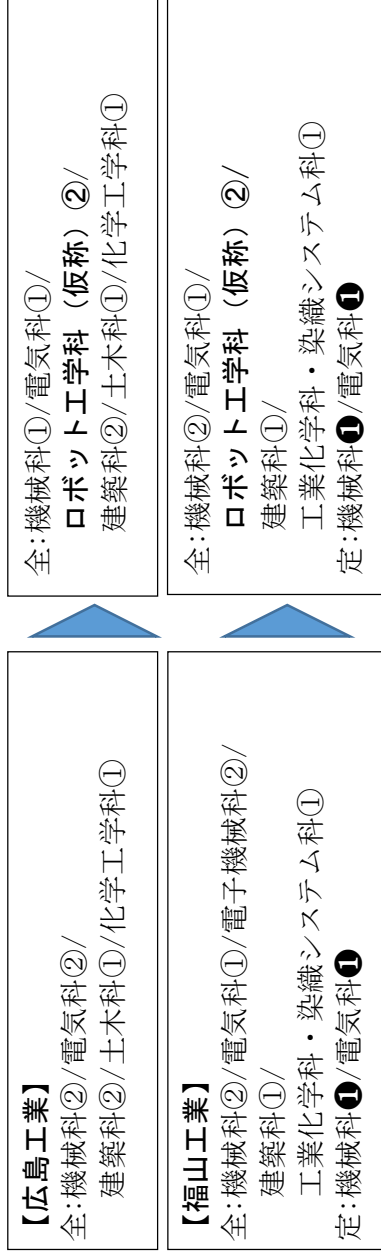
- これまでの県立広島大学や農業技術高等学校等と連携した取組を生かし、農業の成長産業化を牽引するプロフェッショナル人材の育成を目指す
- 高等教育機関や産業界と連携して、ICT、AI等の先端技術により、次世代の農業の形を実現するスマート農業など、実践的な知識・技術を身に付けていく専門的な学び
- 自動走行トラクターやドローンなど、農業DXを取り入れた実習環境の整備
- 地域産業界等や研究機関等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



ロボット工学科（仮称）への学科改編

(1) 対象校

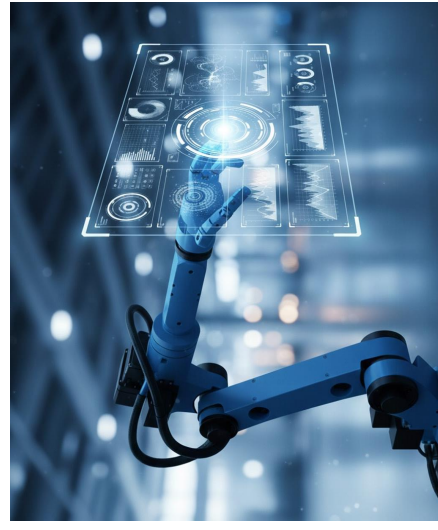
広島工業高等学校、福山工業高等学校



(2) 改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 自動化機器の制御に関わる知識・技術を身に付けた産業イノベーション人材の育成を目指す
- ロボットやモビリティに関わる基礎技術やAI等の先端技術に関わる専門的な学び
- 産業の最前線で通用する知識・技術の習得に向けた実習環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



デザイン工学科（仮称）への学科改編

（１）対象校

宮島工業高等学校

全：機械科②/
電気科・情報技術科②/
建築科・インテリア科②/
素材システム科①
定：機械科①

全：機械科②/
電気科①/情報技術科①/
デザイン工学科（仮称）②/
素材システム科①
定：機械科①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 建築・インテリア・デザインの知識・技術を横断的に学ぶことで、製品の新たな開発等を行う産業イノベーション人材の育成を目指す
- 建築・インテリア等の設計に関わる伝統技術や3Dデジタルデザイン等の先端技術を融合させて、新たな価値を創出していくための専門的な学び
- 産業の最前線で通用する知識・技術の習得に向けた実習環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



生活共創科（仮称）への学科改編

（１）対象校

海田高等学校

【海田】

全：普通科⑤/家政科②

【安芸南】

全：普通科⑤

全：新しい普通科（仮称）⑥/
生活共創科（仮称）②

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 地球環境や持続可能な社会との関係の中で、生活者の視点から、ライフスタイルにイノベーションをもたらし、ウェルビーイングを実現する人材の育成を目指す
- 変化し続けるライフスタイルに着目し、衣・食・住・保・育・福祉・消費生活・環境の領域を横断して、生活の質の向上に寄与する力を身に付けていく専門的な学び
- スマートデバイス等を活用したイノベティブな学びを可能とする高度なデジタル環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



情報科学科（仮称）への学科改編

(1) 対象校
総合技術高等学校

全: 電子機械科①/情報技術科①/
環境設備科①/
現代ビジネス科①/
人間福祉科①/食デザイン科①

全: 電子機械科①/情報科学科（仮称）①/
環境設備科①/
現代ビジネス科①/
人間福祉科①/食デザイン科①

(2) 改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 情報技術を使うだけでなく、その背後にある原理や情報モラルを理解し、AIやビッグデータを使いこなすデジタル人材の育成を目指す
- AI等のデジタルの成長分野で求められる情報技術に関する専門的な学び
- 産業の最前線で通用する知識・技術の習得に向けたデジタル環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実




サイエンス科（仮称）への学科改編

- (1) 対象校
 広島国秦寺高等学校

全:普通科⑥/
 普通科（理数コース）②

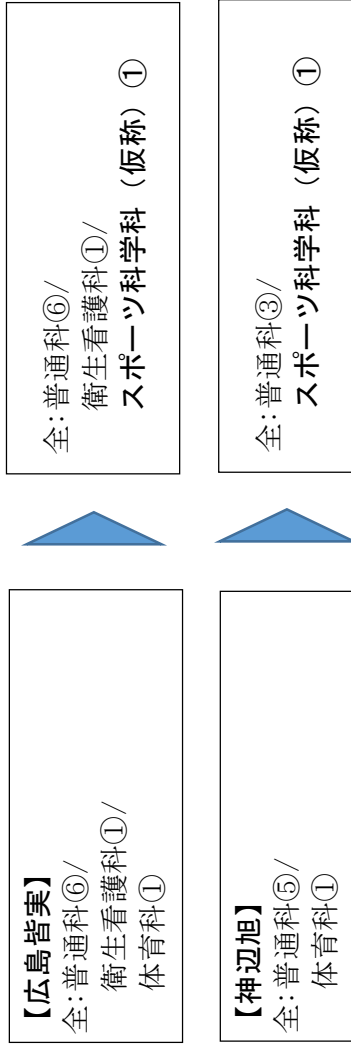
全:普通科⑥/
 サイエンス科（仮称）②

(2) 改編内容

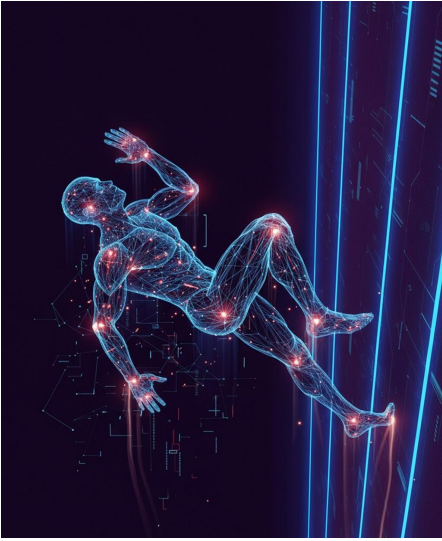
新しい学科の特色・魅力（方向性）	
<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでのスーパーサイエンスハイスクールの取組を生かし、理数教育を先導する拠点として、多様な人々と協働し、異分野の知見を融合して、新たな価値を創造していく科学技術人材の育成を目指す ○ 大学・産業界等と連携した共同研究を通して、最先端科学技術を用いた観察・実験や文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、幅広い教養と科学的思考力を身に付けていく専門的な学び ○ 大学や企業と連携した高度な実験・観察ができる科学機器を設置した研究施設（ラボ）の整備（他校の生徒や小・中学生へも開かれた理数教育に関わる探究活動の拠点としても活用） ○ 大学や研究機関等との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実 	

スポーツ科学科（仮称）への学科改編

- (1) 対象校
 広島皆実高等学校、神辺旭高等学校



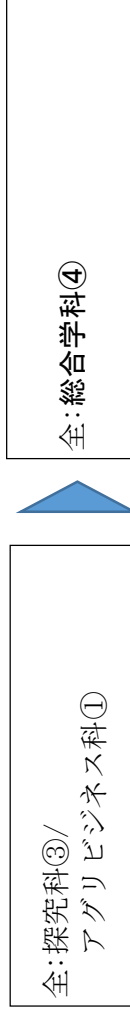
(2) 改編内容

<p>新しい学科の特色・魅力（方向性）</p>	
<p>○ トップアスリートの育成とともに、スポーツアナリストなど、選手を支える専門家や指導者の育成も目指す</p> <p>○ 健康や体力向上、競技力向上に向けた科学的分析及び活用に関する専門的な学び</p> <p>○ 高度なトレーニング施設・設備やスポーツデータ分析に必要なデジタル機器の整備</p> <p>○ 大学との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実</p>	

総合学科への学科改編

(1) 対象校

吉田高等学校



(2) 改編内容

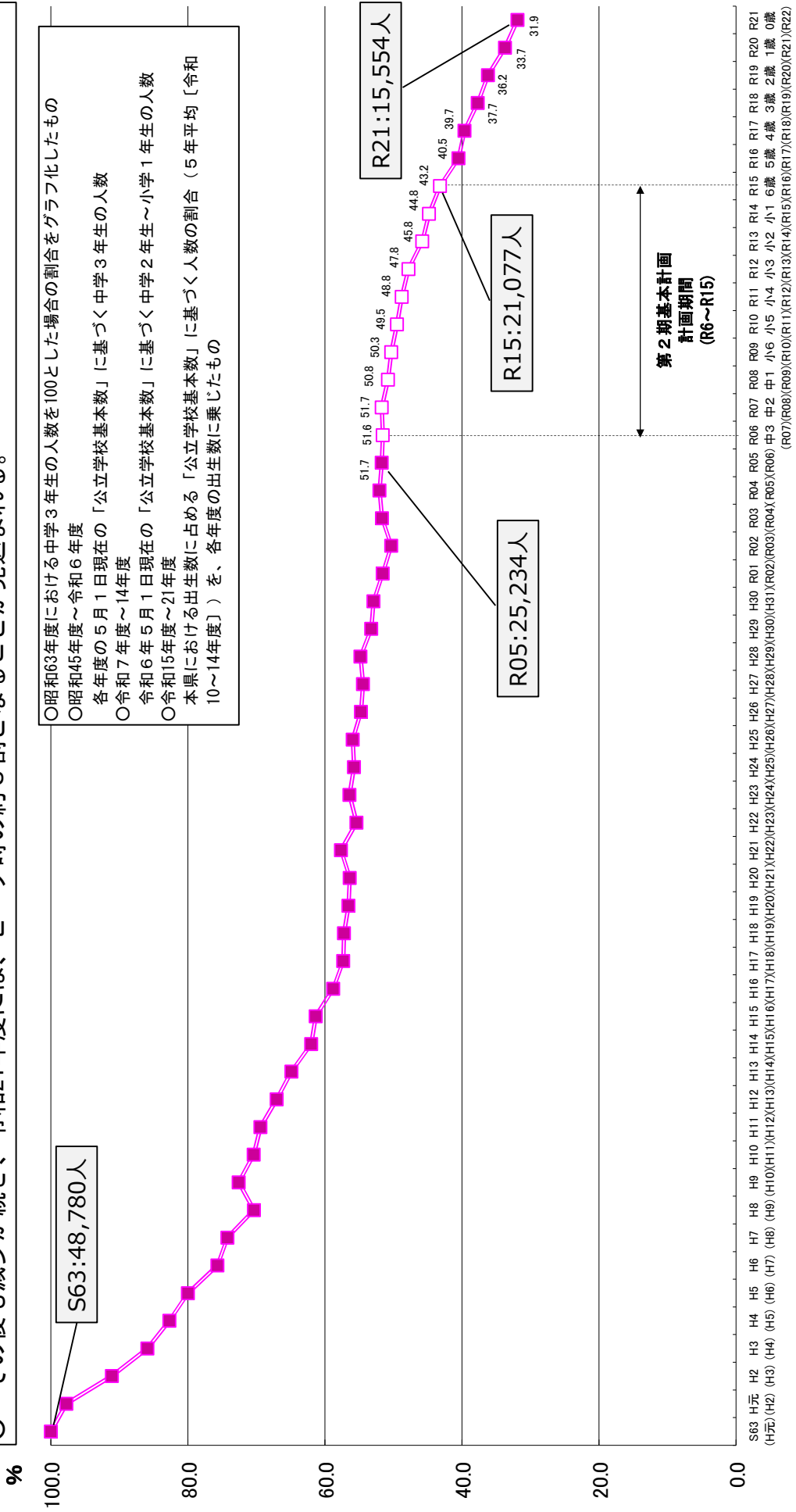
新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 多様なキャリア志向の生徒が、幅広い科目群（農業、スポーツ、伝統芸能等）の中から科目が選択でき、多様な価値観に触れながら自身のキャリアについて考えることができる総合学科
- 地域産業界や大学等と連携し、スマート農業などを通して、最先端技術に触れながら、食や自然環境等の課題について探究する実践的・体験的な学び
- 地域の多様な主体との積極的な交流のための地域交流スペースの整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



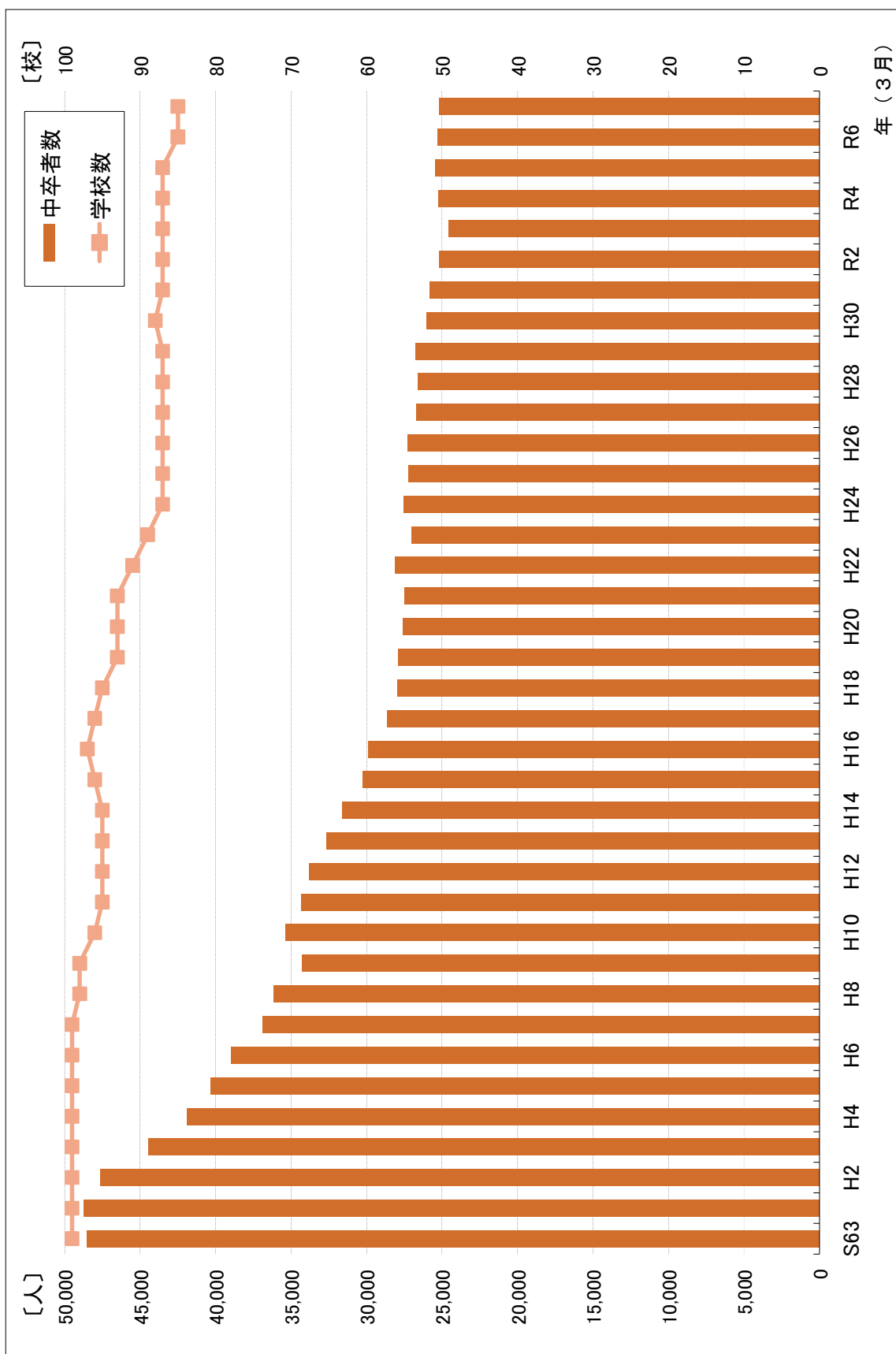
広島県における中学校3年生在籍者数の推移(昭和63年度=100)

○ 中学校3年生在籍者数は、昭和63年度をピークに減少し続けており、令和5年度にはピーク時の約半数となっている。
 ○ 本計画の最終年度の令和15年度には、ピーク時の約4割となることが見込まれる。
 ○ その後も減少が続き、令和21年度には、ピーク時の約3割となることが見込まれる。



※ ()内は高校入学年度を示す。広島市立広島中等教育学校、広島徽智学園中学校の在籍生徒数は除く。
 ※ 国公私合計

中学校等卒業者数と公立高等学校（全日制課程）本校数の推移（設置数）



(義務教育学校を含み、中等教育学校を除く。)

出生数の推移

市区町	年 別 推 移			
	生まれた年	H22 (0歳)	H30 (0歳)	R6 (0歳)
	高校に入学する年	R7 (16歳)	R15 (16歳)	R22 (16歳)
広島県		26,111人	21,950人	16,290人
広島市		11,649人	10,149人	7,661人
広島市中区		1,056人	1,127人	867人
広島市東区		1,147人	933人	716人
広島市南区		1,238人	1,176人	929人
広島市西区		1,950人	1,711人	1,294人
広島市安佐南区		2,935人	2,520人	1,927人
広島市安佐北区		1,200人	838人	600人
広島市安芸区		851人	703人	452人
広島市佐伯区		1,272人	1,141人	876人
呉市		1,854人	1,395人	872人
竹原市		196人	119人	71人
三原市		836人	617人	364人
尾道市		1,028人	801人	509人
福山市		4,562人	3,832人	2,910人
府中市		299人	199人	134人
三次市		483人	343人	256人
庄原市		278人	211人	137人
大竹市		238人	191人	115人
東広島市		1,894人	1,531人	1,293人
廿日市市		938人	847人	700人
安芸高田市		202人	151人	83人
江田島市		143人	109人	65人
府中町		522人	546人	420人
海田町		320人	339人	296人
熊野町		184人	167人	152人
坂町		127人	110人	78人
安芸太田町		35人	20人	10人
北広島町		131人	121人	77人
大崎上島町		36人	24人	15人
世羅町		111人	93人	53人
神石高原町		45人	35人	19人

※各年の「広島県人口移動統計調査報告（10/1～9/30）」の出生数から抜粋。

2040年の就業構造推計における本県の状況

- ・2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合、人口減少により就業者数は減少するものの、AI・ロボット等の利活用やリスキリング等により労働需要が効率化され、国全体での不足は生じない。一方で、**職業・学歴間で供給ミスマッチが生じるリスク**がある。
 - ・本県においても、AI・ロボット等の利活用による省力化に伴い、**事務職(9.4万人)が余剰、AI・ロボット等利活用人材(8.2万人)を含む専門職や現場人材(2.2万人)が不足する可能性**がある。
 - ・学歴別では、大卒・院卒において**文系人材(1.3万人)が余剰、理系人材(2.7万人)が不足する可能性**がある。
- ⇒ 専門高校の機能強化・高度化や普通科改革を通じた文理横断的な学びの充実など、**再編整備による高等学校教育の改革が急務**である。

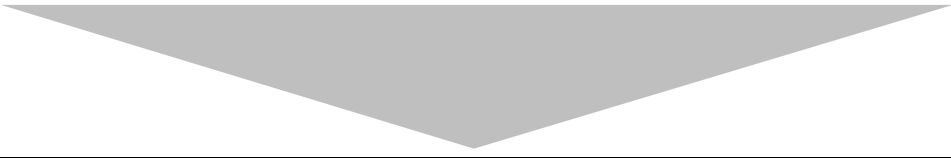
職種・学歴間のミスマッチ

職種別	専門職	うち AI・ロボット等の 利活用を担う人材	事務職	現場人材	うち 生産工程従業者
需供ミスマッチ	-3.2万人	-8.2万人	9.4万人	-2.2万人	-4.1万人
2040年 需要数/供給数	38.9万人/35.7万人	15.3万人/7.1万人	21.8万人/31.2万人	69.7万人/67.5万人	17.7万人/13.6万人
学歴別	高卒 (普通科)	高卒 (工業科)	高専卒	大卒・院卒 理系	大卒・院卒 文系
需供ミスマッチ	1.4万人	-1.5万人	-0.3万人	-2.7万人	1.3万人
2040年 需要数/供給数	16.3万人/17.7万人	11.5万人/10.0万人	1.6万人/1.3万人	18.8万人/16.1万人	32.5万人/33.8万人

(注) 「2040年の就業構造推計(改訂版)について」(経済産業省) (https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shin_kijiku/pdf/030_s02_00.pdf) をもとに広島県教育委員会が作成。
 (注) 2025年6月経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会「第4次中間整理」における2040年の産業構造推計(新機軸ケース)を前提としている。
 (注) 職種分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類(総務省)による。「専門職」は、専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。学歴は学校基本調査上の学部学科コードを元に分類(「院卒」には修士卒・博士卒を含む)。なお、表には主要な項目のみ掲載しているため、ミスマッチ数の合計はゼロにならない。

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」策定に係る検討経緯

計画期間	月日	検討の経緯等
第1期基本計画	令和5年度	
	6月16日	【国の動き】 教育振興基本計画の策定
	10月19日	○県議会（文教委員会） ・次期「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」の考え方について
	11月10日	○教育委員会会議 ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の素案について
	11月17日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の素案について
	11月20日 ～ 12月19日	○パブリックコメント ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の素案について
	12月15日	○県議会（文教委員会【集中審議】） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の素案について
	2月29日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」素案に対する意見への対応等について
	3月11日	○教育委員会会議 ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の策定について
第2期基本計画	令和6年度	
	4月19日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の策定について
	7月19日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（第2期）」に係る実施計画（仮称）の策定について
	12月4日	○有識者会議（第1回） ・実施計画の策定に当たっての方向性等について
	1月22日	○有識者会議（第2回） ・整備する学校・学科のイメージについて
	2月25日	【国の動き】 いわゆる高校無償化の三党合意（自由民主党・公明党・日本維新の会）
	令和7年度	
	10月17日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の基本的な考え方（案）について
	11月21日	○有識者会議（第3回） ・新たに整備しようとする学校・学科の方向性（案）について
	2月13日	【国の動き】 「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」の公表
	2月16日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の素案について
	2月17日 ～ 3月18日	パブリックコメント ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の素案について
	3月17日	○有識者会議（第4回） ・素案の妥当性について、新しい学校・学科の特色・魅力の方向性について
	3月26日	○総合教育会議 ・今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（素案）

計画期間		月日	検討の経緯等
第2期基本計画	実施計画の検討	令和8年度	
		4月17日	○県議会（文教委員会） ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」素案に係るパブリックコメント（県民意見募集）の結果について
		4月22日	○教育委員会会議 ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」素案に係るパブリックコメント（県民意見募集）の結果について
	5月15日	○教育委員会会議 ・「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の策定について	
	実施計画		
		令和15年度	
		3月31日	○計画期間終了

計画実施の目標年度

	対象校	実施内容	目標年度
学 校 統 合	呉工業高等学校 呉商業高等学校	総合型高等学校	令和 14～15 年度
	海田高等学校 安芸南高等学校	総合型高等学校 新しい普通科	令和 14～15 年度
	竹原高等学校 忠海高等学校	新しい普通科	令和 11 年度
	三原高等学校 三原東高等学校	新しい普通科 フレキシブルな学び	令和 12～13 年度
	賀茂高等学校 河内高等学校	新しい普通科 フレキシブルな学び フレックス・キャンパス	令和 14～15 年度
	高陽高等学校 安西高等学校 高陽東高等学校	総合学科 フレキシブルな学び	令和 14～15 年度
	松永高等学校 沼南高等学校 福山誠之館高等学校(定時制) 福山葦陽高等学校(定時制) 東高等学校	フレキシブルな学び	令和 14～15 年度
学 科 改 編	庄原実業高等学校	先端生産創造科（農業科）	令和 10 年度
	広島工業高等学校	ロボット工学科（工業科）	令和 10 年度
	福山工業高等学校	ロボット工学科（工業科）	令和 12～13 年度
	宮島工業高等学校	デザイン工学科（工業科）	令和 12～13 年度
	海田高等学校	生活共創科（家庭科）	令和 11～12 年度
	総合技術高等学校	情報科学科（情報科）	令和 12～13 年度
	広島国泰寺高等学校	サイエンス科（理数科）	令和 10 年度
	広島皆実高等学校	スポーツ科学科（体育科）	令和 11～12 年度
	神辺旭高等学校	スポーツ科学科（体育科）	令和 11～12 年度
	吉田高等学校	総合学科	令和 11～12 年度

